

報道発表資料
平成24年12月25日
気象庁

ブイ式海底津波計の津波警報への活用について

気象庁は、平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震の震源域の周辺で発生する津波の早期検知のため、当該海域付近へのブイ式海底津波計（水圧式）3基の整備を進めています。

このうち、2基については、データ内容、受信状況等が良好であることを確認できましたので、これらのデータの津波警報への活用を12月25日より開始します。これにより、東北地方沖合の日本海溝付近で発生した津波の場合、地震発生後10分程度で津波の検知が可能となります。また、津波警報に活用する沖合の水圧式津波計は合わせて37台となります。

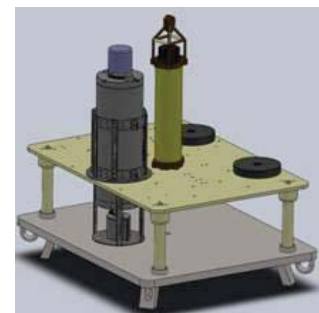
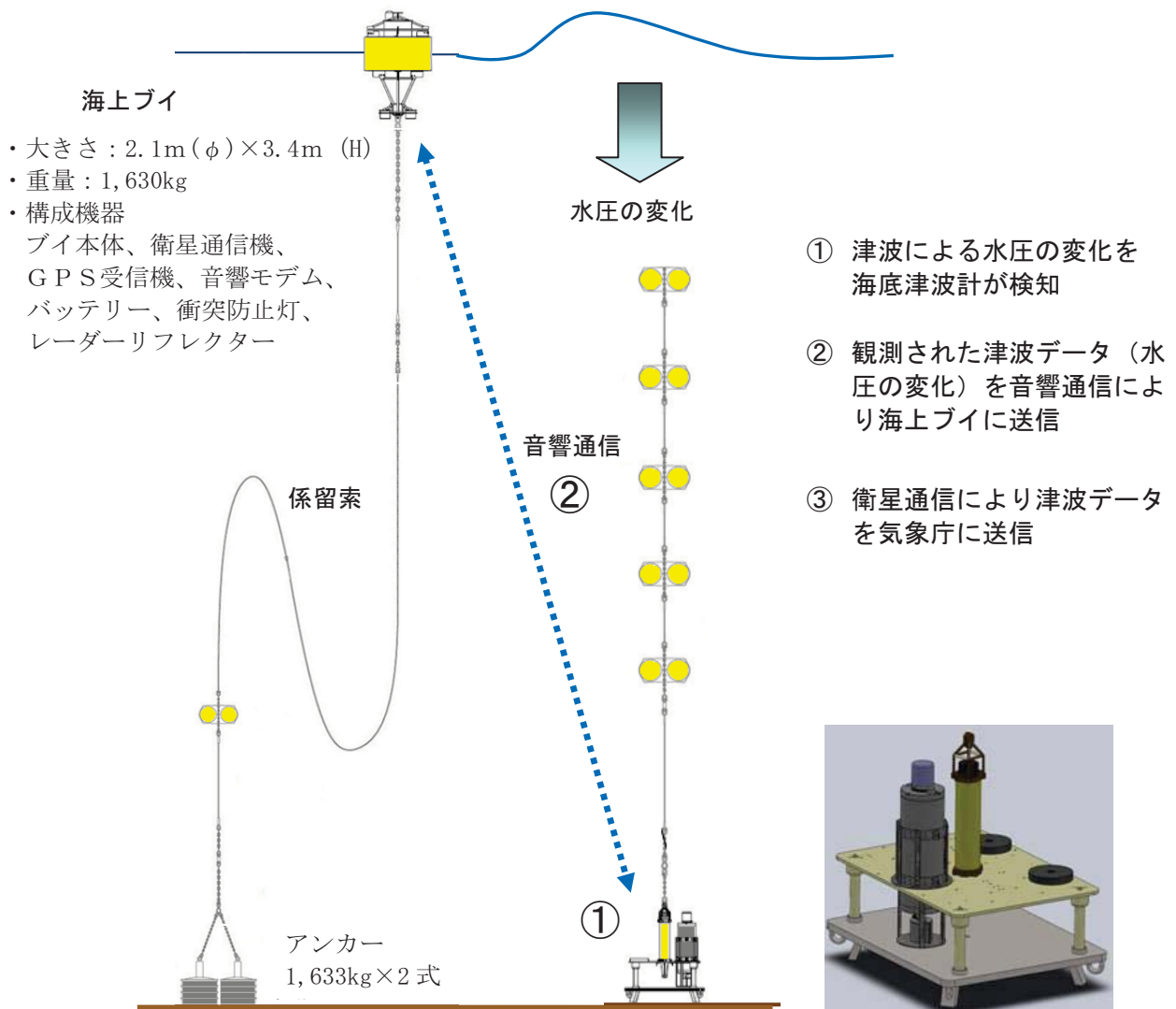
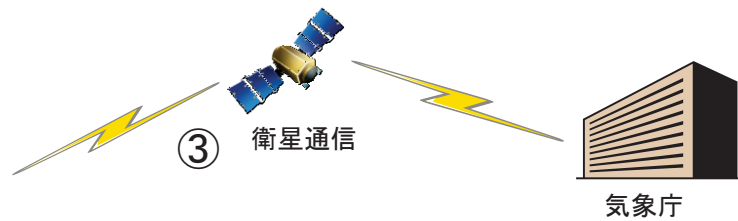
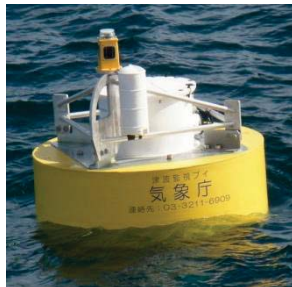
なお、残り1基については、天候状況等を踏まえつつ、早期に設置できるよう調整を進めているところです。

ブイ式海底津波計の観測値については、平成25年3月7日に予定している新たな津波警報への移行に伴い導入する沖合津波観測に関する情報において発表する予定です。

本件に関する問合せ先：

気象庁地震火山部地震津波監視課 03-3212-8341(内線 4839, 4539)

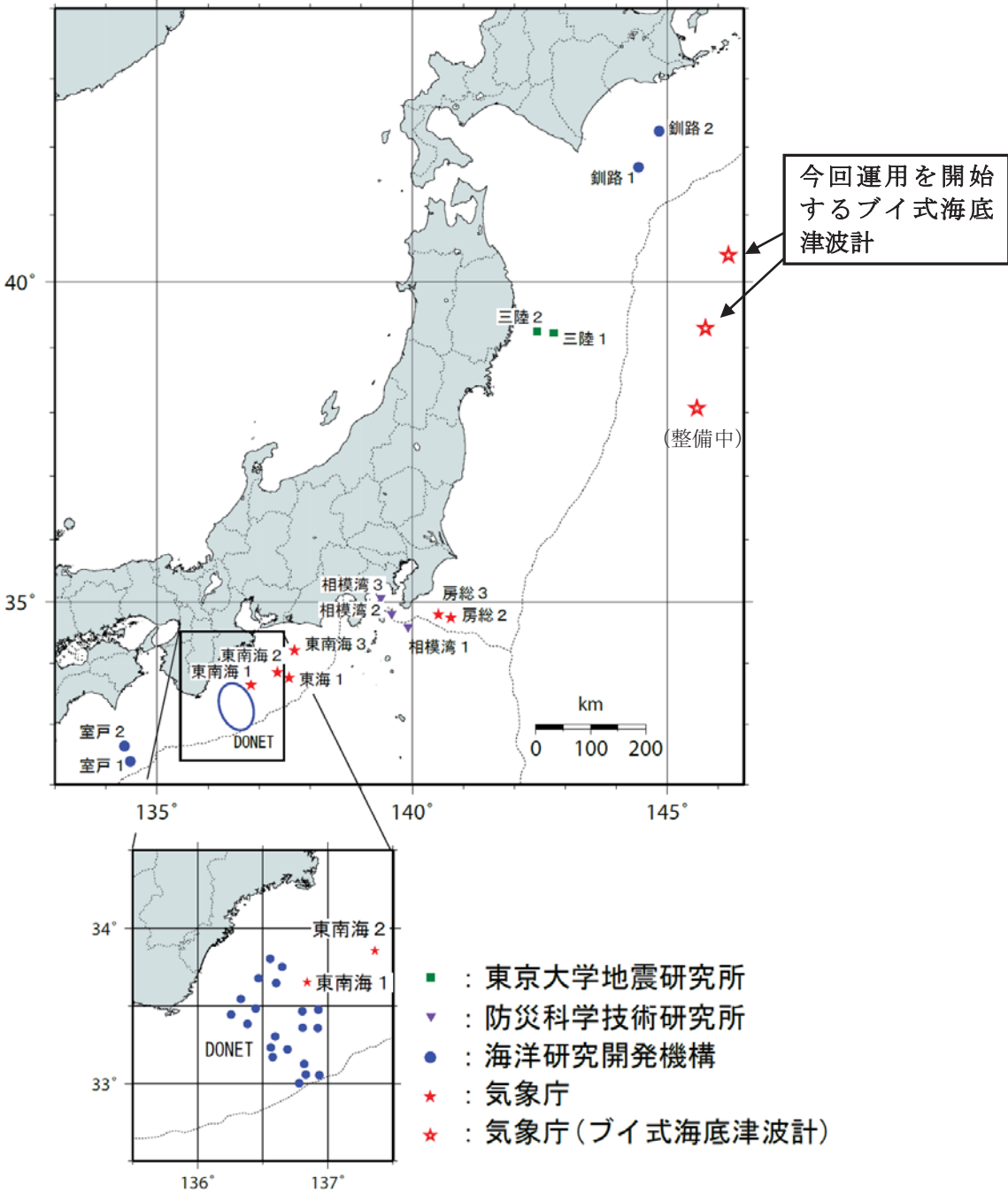
ブイ式海底津波計の概要



海底津波計

- 大きさ : 1.2m (W) × 1.0m (D) × 1.26m (H)
- 重量 : 550kg
- 構成機器
筐体（水圧計、傾斜計、データロガー、バッテリー）
切り離し用トランスポンダ、アンカー

沖合の水圧式津波計の配置図



注) 三陸 1、2 は、東北地方太平洋沖地震による被災のため、平成 24 年 12 月現在、欠測中。
DONET (地震・津波観測監視システム) の津波計は全 20 地点。

ブイ式海底津波計による津波早期検知の効果

ブイ式海底津波計が 3 基整備された場合の効果は以下のとおり。

- ・ブイ式海底津波計の設置により、海溝軸付近で発生する津波を、地震発生後 10 分程度で捉えることが可能となる（図 1）。
- ・同領域で発生する津波を、既存の観測網に比べて、場所によっては 10 分以上早く捉えることが可能となる（図 2）。

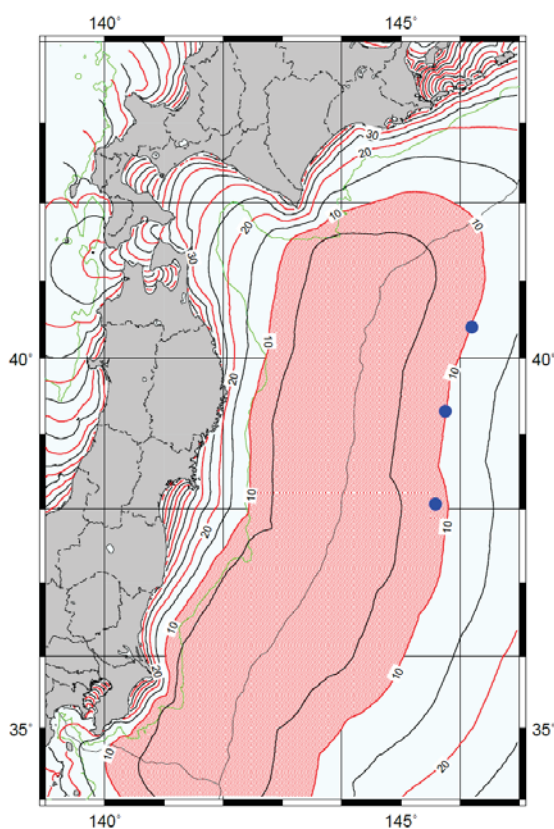


図 1 海溝軸付近で想定される津波発生源から津波が伝搬する時間。

等値線は 5 分間隔。赤く塗った領域は、想定される津波発生源から津波が 10 分で伝搬する範囲。

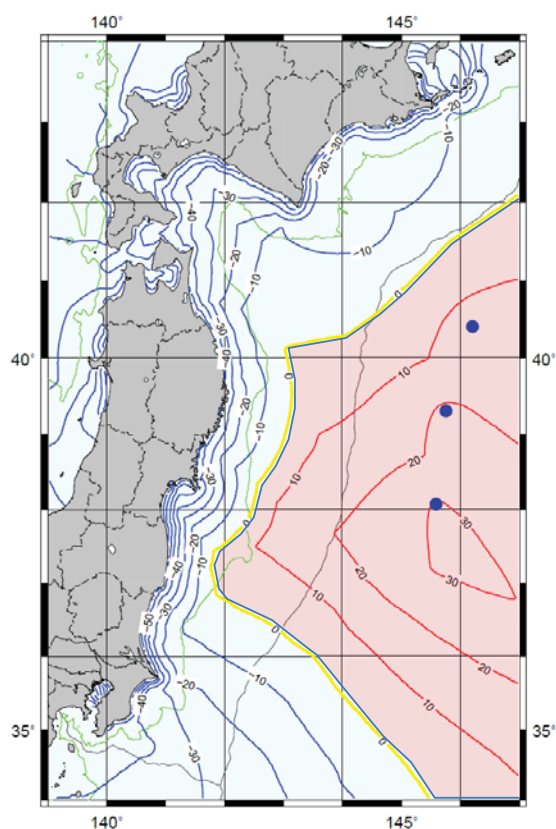


図 2 ブイ式海底津波計と既存の観測網との津波検知までの時間差。

等値線は 10 分間隔。赤く塗った領域は、ブイ式海底津波計で既存の観測網よりも早く検知できる津波の発生範囲。

(参考)

ブイ式海底津波計の設置状況



海上ブイの投入作業



海底津波計の投入作業



投入後の海上ブイ